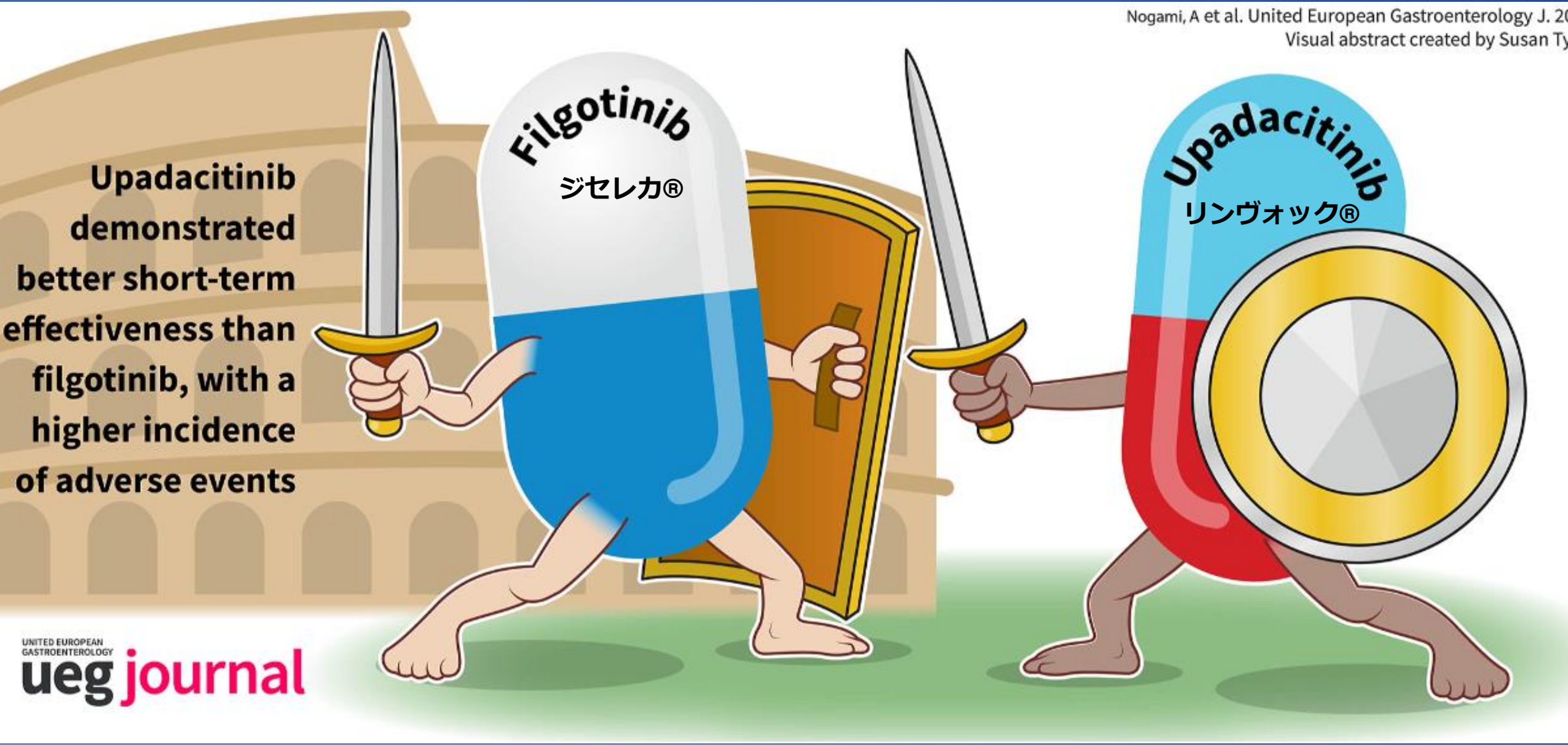


Real-world comparative effectiveness and safety of filgotinib and upadacitinib for ulcerative colitis: a multicentre cohort study

野上章¹、阿曾沼邦央¹、岡林慎二²、池ノ内真衣子³、松田尚久⁴、新崎信一郎³、深田雅之⁵、小林拓¹

- 1. 北里大学北里研究所病院
- 2. 橋本市民病院
- 3. 兵庫医科大学
- 4. 東邦大学医療センター大森病院
- 5. 東京山手メディカルセンター

雑誌名： *United European Gastroenterology Journal*
URL： <http://doi.org/10.1002/ueg2.12704>



【はじめに】

潰瘍性大腸炎では近年、生物学的製剤やヤヌスキナーゼ（JAK）阻害薬などのさまざまな新規治療薬が開発されています。JAK阻害薬はトファシチニブ（商品名：ゼルヤンツ®）に続き、フィルゴチニブ（商品名：ジセレカ®）、ウパダシチニブ（商品名：リンヴォック®）が発売され、現在この3種類が使用可能となっています。

しかしながら、これらの薬をどう使い分けていくかは明確に決まっておらず、診療において判断に悩む場面に遭遇することもあります。そこで、我々はこのジセレカ®とリンヴォック®の特性や効能を明らかにするため、実際にこれらの薬を臨床で使用した患者さんの有効性や安全性を調べて比較する研究を、当院、兵庫医科大学、東京山手メディカルセンターの3施設で実施したためその研究結果を報告させていただきます。

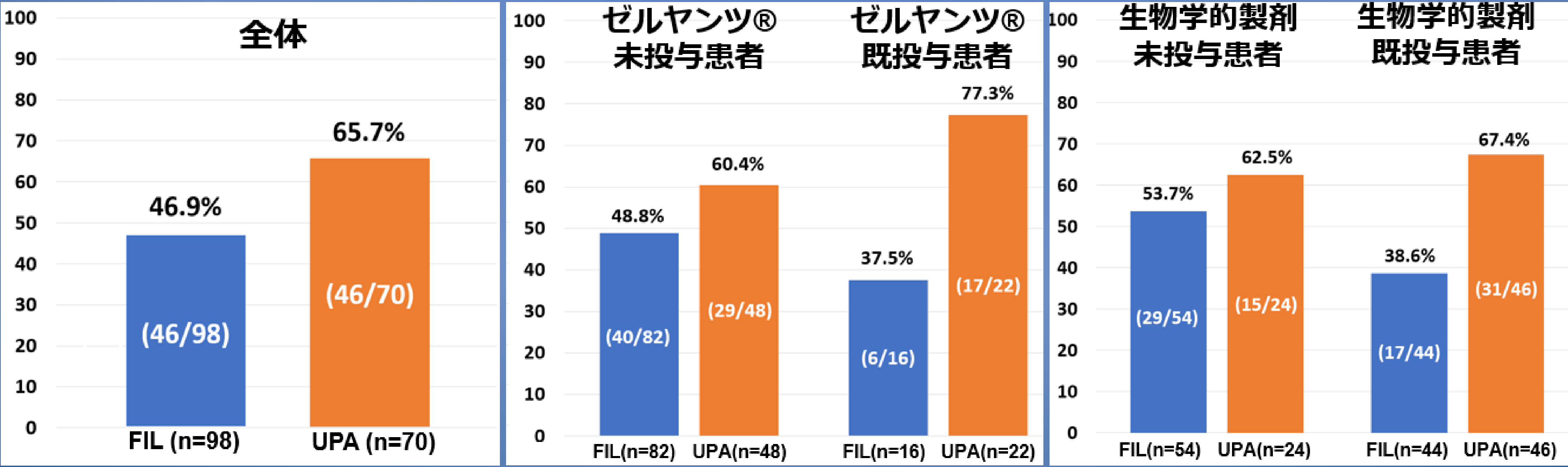
【方法と結果】

3施設にてジセレカ®またはリンヴォック®を投与された活動期の潰瘍性大腸炎患者さん168名が対象となりました。

投与開始から8週目の臨床的寛解率はジセレカ®よりリンヴォック®が優れていました（図）。その有効性は生物学的製剤（商品名：レミケード®、ヒュミラ®、シンポニー®、エンタイビオ®、ステラーラ®など）やゼルヤンツ®の投与歴がある患者さんでより顕著となりました。

副作用はジセレカ®よりリンヴォック®の方で多いことも示されましたが、治療継続率は両薬剤で同程度であることも判明しました。

図. 8週目の臨床的寛解率



【結論】

今回の研究の結果、潰瘍性大腸炎患者さんにおいてリンヴォック®はジセレカ®より短期の有効性が優れていることが判明しました。ただし、リンヴォック®では副作用発生率が高いこと、治療継続率は同程度であることも示されました。以上から、ジセレカ®・リンヴォック®のどちらを選択するかについては2つの薬の有効性と安全性についてよく相談して決めていくことが重要であると考えられます。

最後に、この研究にご協力いただいた先生方、スタッフの皆様、患者様に深く感謝申し上げます。この研究が多く潰瘍性大腸炎患者様のお役に立てれば幸いです。

(文責 野上 章)